

NPO 法人ものづくり APS 推進機構が 「PSLX プラットフォーム計画」を発表

キーワード：製造現場のIT化、アプリケーション連携、標準化技術、製造インテグレーション、共通ソフトウェアコンポーネント

NPO 法人ものづくり APS 推進機構（APSOM）は、2008年6月「PSLX プラットフォーム計画」を発表した。これは、製造業の日本的な生産管理方式に沿った情報技術の指針として2008年1月にリリースした「PSLX 標準仕様バージョン2」をベースとした情報システム構築のためのソフトウェア開発の基本的な方針を示したものである。APSOMには、国内の主要なアプリケーションベンダーが多く参加しており、工場等の製造現場で利用されるアプリケーションソフトウェアが、今後1、2年のうちに相互に情報連携することが可能となる。

基幹系システムとしてはERPをはじめとする大規模なソフトウェアがすでに多くの製造業で稼働しているが、工場の内部の情報システムでは、製造指示や在庫把握、そして設備保全や品質管理など、それぞれに必要なデータがそれぞれ独自に管理されている場合が多い。“製造現場の情報は、社内共通の情報システムではなく、工場固有の管理ノウハウを受け入れられる柔軟なしくみでなければ管理できないからなのです。（前田智彦氏 富士通(株)ものづくり推進本部 生産革新センタ部長、APSOM 戦略企画委員会委員長）” この際、個々の情報システムがもつデータが相互に連携できないため、マスターの再入力の手間や不整合など、今までは多くの問題を抱えていたのだ。

「PSLX プラットフォーム計画」では、生産スケジューラをはじめとする製造現場で利用されるアプリケーションソフトウェアが、そのマスターデータやトランザクションデータを情報として相互に交換しあう共通のインタフェースを備えることで、この問題を解決する。“我々は、そのために、まずは国内でアプリケーションパッケージを独自に開発・販売している多くのITベンダーと連携して、共通仕様のソフトウェアの実装を進めることにしました。（西岡靖之氏 法政大学教授、APSOM 副理事長）” すでに、核となる基本モジュールは完成しており、今後はそれぞれのパッケージベンダーが共同で製品実装を進めていく作業を進め、2009年の前半にはPSLX プラットフォーム対応製品が多くの製造業において利用可能となる予定という。

現在、企業向けソフトウェアのいくつかはSaaSというプラットフォームを利用してWeb

上でデータを管理する方法もあるが、製造現場では、つねにモノと情報を一体として管理する必要がある。“現地・現物に立脚した日本的なモノづくりを情報技術でより強化するためには、PSLXプラットフォームを利用して情報の「見える化」をさらに進める必要があります。(黒岩恵氏 元トヨタ自動車㈱、APSOM 理事長)” これは、製造業の生産現場の IT 化のみの問題ではなく、情報システムをより人中心にするための試みということもいえそうだ。

PSLX フォーラムについて

PSLX フォーラムは、ものづくり APS 推進機構が運営している完全にオープンな技術集団であり、PSLX 標準仕様の策定や、計画スケジューリングを中心とした製造業の IT 化に関するさまざまな問題を議論するための組織です。ここで策定された標準仕様の一部は、すでに IEC 国際標準として採用されており、それ以外にも、国際標準化機関である ISO や、XML 標準化団体である OASIS などにおいて、製造業の IT 化を実現するための重要な国際標準として現在規格化が検討されています。わが国のものづくりの強みをさらに確かなものとするために、日本発の国際標準を今後も出し続けていく予定です。

ものづくり APS 推進機構について

NPO 法人ものづくり APS 推進機構は、わが国の製造業がもつ貴重な知的財産である現場中心の知識やノウハウを形式知化し、高度な計画スケジューリング統合技術によってダイナミックに変化するビジネス環境に同期しながら全体最適を実現するための情報技術インフラを確立するために、設立された非営利団体です。2001年に設立された PSLX フォーラムが改名し、2007年より新たにスタートしました。製造業の視点から、IT の活用を積極的に提案し、次世代の知的プラットフォームの構築を目指しています。

本件に対するお問い合わせ先：

NPO 法人ものづくり APS 推進機構

東京都港区虎ノ門三丁目 11 番 15 号

財団法人製造科学技術センター内

電話 03-5472-2561

FAX 03-5472-2567

<http://www.apsom.org/>